

関数cor.testの引数

x, y	numeric型の観測値のベクトル。xとyの長さは同じでなくてはならない。
alternative	character型。"two.sided"で両側仮説、"greater"で右片側仮説、"less"で左片側仮説を指定する。
method	character型。"pearson"でPearsonの積率相関係数、"kendall"でKendallの τ 、"spearman"でSpearmanの ρ に関する検定を指定できる。
exact	logical型。KendallとSpearmanの検定の際に正確なp値を計算するかどうか。
conf.level	信頼区間の信頼水準。ピアソンの積率相関係数の検定かつサンプルサイズが4以上のときに適用される。
continuity	logical型。trueの場合、KendallとSpearmanの検定の際に連続性補正が適用される。
formula	$\sim u + v$ の形から成るformula型のオブジェクト。
data	観測値から成る行列またはデータフレーム。
subset	検定に用いる観測値を指定するためのベクトル。
na.action	データにNAがある場合に実行する関数。デフォルトでna.action。